

大切な海岸を守るためには

村上市立山北中学校 3年 加藤 日向

来年の9月、山北の魅力の一つである「笹川流れ」は、国の名勝天然記念物に指定されてから100周年を迎えます。「笹川流れ」という名は、岩の間を盛り上がるように流れる潮流を、中心地である笹川集落の名にちなんで付けられたと言われています。眼鏡岩、びょうぶ岩、恐竜岩などをはじめとした見事な岩々と美しい海。そして、その海に映える真っ赤な夕日は、絶景です。

山北中学校では、この山北の自然環境に対する関心を高め、積極的に環境美化に参加する気持ちを育てるために、毎年、「小中合同海岸クリーン作戦」という活動を行っています。これは、小学生と中学生が一緒になって、地元の海岸にあるゴミを清掃する活動です。今年度、その活動をしているとき、私は、砂浜にプラスチックのゴミやビン、明らかにバーベキューをした後のゴミ、海外から流れてきたゴミなどが落ちているのを目の当たりにしました。

他にも、山北中の3年生は、毎年、総合的な学習の時間に、山北まちづくり協議会の方と協働し、地域活性化のためにできる取組を考えて、3月に「楽習会」という場で発表する活動も行っています。「お土産プロジェクト」という名で、今年度は山北の魅力をデザインしたキーホルダーの作成に取り組んでいます。

このように、魅力ある山北で暮らす私たち山中学生には、ふるさと山北をより良くし、その良さを広めていく役割があるのだと、3年生になった今、実感しています。

そのような思いでたくさんの様々なゴミを目の当たりにしたときのことを思い出すと、これまで「ゴミがたくさんある」という印象だけだった海岸に、思うところが出てきました。それは、ほとんどの人は海にゴミを捨てているのではなく、海に行ったとき、砂浜に自分が使ったものをそのままにしていたり、砂浜に捨てていたりしているのではないかという思いです。なぜなら、釣りの道具やペットボトルなどもたくさん落ちていたからです。このことから、社会問題の一つである海岸ゴミの問題は、自然に起きる仕方のないことではなく、人の力で解決することができる課題なのではないかと考えるようになりました。

また、海に流れていたり砂浜に落ちていたりするゴミをなくすためには、海岸でのポイ捨てを止めるだけでなく、海から離れた場所でのポイ捨てを防がないといけません。なぜなら、それらのゴミは巡り巡って川や海を通り海に流れ着くからです。ゴミはゴミ箱に。この気持ち、行動が徹底されない限り、この課題は解決できません。

私たち一人一人にできることは何でしょうか。「水筒を使うことでペットボトルゴミをおさえる」「エコバッグを使うことで買い物に行ったときにレジ袋をもらわないようにする」「ゴミがポイ捨てされていたら拾う」「ボランティア活動をする際には友だちも誘って一緒に活動する」といったことでしょうか。

しかし、私たち山中生には積み重ねてきたことがあります。「海岸クリーン作戦」と「お土産プロジェクト」です。私が知っている限り、共に学校生活を送ったことがある先輩もこれらの活動を行っていました。また、清掃活動に関しては、私が小学5年生のときから行っているため、5年間取り組んだことになります。つまり、山中生は、ふるさと山北の魅力をより良くするための清掃活動と、よりよくした魅力を発信する活動を繰り返し行っています。また、今年度の2年生は、清掃活動で回収した海洋ゴミを活用し、保護者の方と一緒にアート作品の制作を行っていました。流木で骨組みを作り、プラスチックゴミや貝殻などを組み合わせて「かめ」のオブジェを作るというものです。このように、海洋ゴミに対する活動をボランティアだけで終わらせず、その他の活動につなげることもしました。

私は、「小中合同海岸クリーン作戦」を通して、海に流れていたり砂浜に落ちていたりするゴミの中には、人間が意図的に捨てたか、捨てるのを忘れたゴミが多く含まれていることを実感しました。ふるさと山北の魅力ある海と大切な海岸を守るためには、「ゴミ拾い」「ボランティア活動」という個人の意識では限界があります。多くの人々を巻き込むために、私たちが積み重ねてきた活動を広く発信していきたいです。

どうか、ふるさと山北の大切な海岸を守るために、一人一人が積み重ねられることをしていきましょう。